

関連する内容項目：2－（1）

気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。（解説p.42）

事例

場面1 あいさつを題材にした授業

教科であいさつについての題材を扱ったり、学級活動であいさつについて話し合ったりする場面で、各教科等のねらいを踏まえつつ、道徳の内容項目を併せて指導することが大切です。



友達とあいさつするのは大切ですね。気持ちのよいあいさつというのは、どのようなあいさつなのでしょう。

友達から大きな声で言われたり、にこにこ元気に言われたりすると気持ちよくなります。



ロールプレイを取り入れながら



それでは、二人組になって確かめてみましょう。声の大きさや表情を変えて、お互いにあいさつしてみましょう。

大きな声ではっきりと、にこにこしながらあいさつをされたとき、どんな気持ちになりましたか。自分で言ってみた後は、どんな気持ちになりましたか。



とても気持ちがよかったです。これからは元気にあいさつしたいと思います。

言われたとき、うれしくて元気が出ました。



なるほど、あいさつをしたとき、あいさつをされたとき、どちらも元気が出て、うれしい気持ちになれるのがよいですね。

【指導上の留意点】

- ・児童に、お互いにあいさつすることのよさを気付かせるようにしましょう。
- ・低学年では、相手や場に応じたあいさつもできるようになることが大切です。

場面2 集会、朝の会・帰りの会等

教室や校内であいさつができるようにすることと同時に、来校者や地域の方々にも、同じように気持ちのよいあいさつができるよう、個に応じて指導していく必要があります。

あいさつは、
知られたら、
いいですね。

ある学校では、あいさつ運動に力を入れており、学校内のあいさつが来校者にも褒められるようになってきました。そんなとき、PTA活動で、朝の交通指導をしている保護者から「子どもたちにあいさつをしても、あいさつを返してくれない」という話がありました。

この間、学校の腕章を着けた交通指導担当の保護者の方から、登校のときに「あいさつをしても、あいさつを返してくれない子が多い」というお話を聞きました。皆さんは、どうですか？

みんながしなかつたので、しませんでした。
それに、僕の知らない人だったし…。

学校の外で元気にあいさつをするのは恥ずかしいので、しませんでした。

でも、学校の腕章をしている方は、この学校の保護者の方ですよ。地域で皆さんを見守ってくれている大人の方はたくさんいらっしゃいます。あいさつをしてくれたときには、ありがとうございますの気持ちを込めて、あいさつができるといいですね。

あいさつをする人も、される人も気持ちよくなるとよいですね。今度からは、保護者の方に気付いたら、皆さんの方から進んであいさつができるようになると、もっと素晴らしいですね。

【指導上の留意点】

- ・学校だけでなく、地域においてもあいさつができるようにすることが大切です。
- ★あいさつの指導が学校だけの指導に終わらないよう、例えば、学校だよりや学年だよりを通して家庭や地域にも積極的に働き掛け、理解と協力が得られるようにしましょう。そして地域全体に協力をお願いしていることを児童にも伝え、児童からも安心してあいさつができるようにしていきます。

「こころのノート」との関連

「うつくしい心をそだてよう」(pp.10-11) 「気持ちのいい一日」(pp.14-15)
「あいさつは心のリボン」(pp.36-37) 「ありがとうをさがそう」(pp.48-49)

関連する内容項目

- 1－(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。(解説p.40)
4－(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。(解説p.45)

事例

場面1 生活科で町探検をする活動

授業で行う校外活動は、事前の指導が大切であることは言うまでもありません。その中で道徳的な価値とつながりのあることについては、「分かっていること」とせずしっかりと指導することが大切です。

明日は、いよいよ町探検の日ですね。どんなことが見つかるか、とても楽しみです。

早く行きたいなあ。うまくインタビューができるかな。お店には、どんなものがあるのかな。

楽しみです。でも、お店に入ったときにどんなことに気を付けるとよいですか。

様々な意見の中から次のような意見が出ました。

お店のものをとったりすることはいけないと思います。

そうですね。お店にあるものは、売り物です。お店のものは、お金を払って買わなければなりません。お店の人が困ってしまいます。自分が欲しいからといって、持ち帰ってははいけません。分かっているとは思いますが、気を付けるようにしましょうね。

【指導上の留意点】

- ・町探検でお店や施設を訪ねたとき、児童は目新しいものや魅力的なものをたくさん目にします。ものをとることは、いけないことは当然分かっているとは思わずに、繰り返し教えるようにしましょう。
- ・お店のものをとるといことは、お店に損害を与えるだけでなく、お店の人の信頼を裏切ることになります。また、ものをとる行為が犯罪行為であり、ものを返したり、お金を払ったりすれば済むことではないことも、発達の段階に応じた表現で教えるようにしましょう。

場面2

日常的な学校生活の場面

正しい判断力が十分備わっていない低学年の児童は、その場の感情で行動してしまい、目の前のものをもってしまふようなことがあります。このような場合、善悪の判断なくとってしまうこともあるので、状況を見極めながら指導することが大切です。

例えばこんな場面が見られたとき……

休み時間、Aさんは、友達のBさんが持っている消しゴムを勝手に使っていました。しばらくして、Bさんは自分の消しゴムが無くなっていることに気がきました。Bさんがまわりを見ると、Aさんが自分の消しゴムを使っているのに気づき、「とられた！」と騒いでいます。



私は、とってないです。
忘れたから借りただけです。

借りたことをBさんにきちんと伝えましたか？



伝えていませんでした。友達だから、使ってもよいと思ったので……。



それでBさんはどう思ったでしょう。勝手に使われてしまったという思いになってしまいますよね。Aさんも、自分のものを友達に勝手に持っていかれたら、どう思いますか？

自分のものと人のものを区別することは大切なことです。たとえ仲のよい友達であっても、黙って借りれば、とったことと同じになってしまいます。とられて嫌な気持ちになる相手のことも考えられるようにしましょう。

【指導上の留意点】

- ・なぜ友達のものをもってはいけないのか、相手の気持ちを考えさせることで気付かせるようにしていきます。どんな理由があっても、人のものをとる行為はしてはならないことを、しっかり教えましょう。
- ★友達の家で遊ぶときに、人のものを自分のもののように扱ったり、冷蔵庫を勝手に開けて飲み物を飲んだりすることが問題になることがあります。家庭との連携を図りながら、指導することも大切です。

「こころのノート」との関連

「しては ならないことが あるよ」(pp. 32-33)

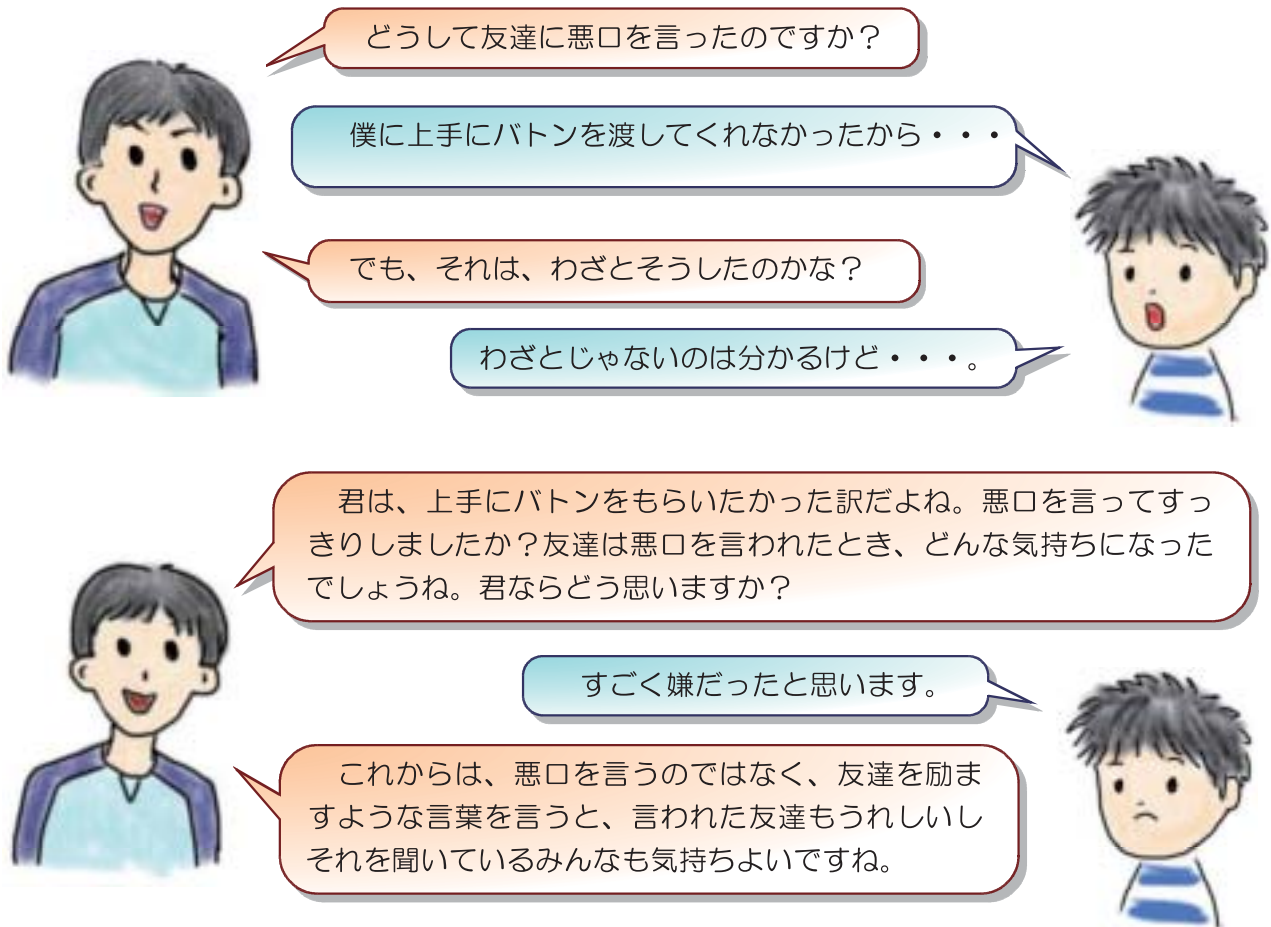
関連する内容項目

- 1－(3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。(解説p.40)
2－(3) 友達と仲よくし、助け合う。(解説p.43)

事例

場面1 体育の授業

この時期の児童は、幼児期の自己中心性がまだ残り、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいと言われています。そのため、相手に自分の思いをうまく伝えられず、悪口になってしまうことがあります。嫌な思いをしないように、相手にどのように伝えたり言葉を掛けたりしていけばよいか教えていくことが大切です。



【指導上の留意点】

- ・悪口を言う場面が見られたら、その場の注意だけで終わさず、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせることが大切です。
- ・悪口を言った児童の気持ちを受け止めながら、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせていくことで、自分の思いばかりを優先させては、よりよい友達関係は築けないことに気付かせていきます。

場面2

道徳だよりを通して

悪口を言わないようにするためには、普段の生活の中での言葉遣いに対する指導も重要です。悪口につながるような言葉を無くするためには家庭の協力は欠かせません。そこで、道徳だよりを通して「悪口を言うことはいけない」という指導を家庭の協力を得ながら進めることが大切です。

ある学校では、教室での会話の中に「ウザイ」「バカ」「〇〇してんじゃねーよ」など、乱暴な言葉や悪口が聞こえるようになりました。そこで、先生方で話し合い、学校での指導と併せてチェックシートを作成し、家庭にも協力を呼び掛けることにしました。

先生は、最近、皆さんの言葉遣いが気になっています。皆さんはどうですか？皆さんから乱暴な言葉や悪口などが聞こえてくると、先生はとても悲しい気持ちになります。おうちでは、言葉遣いについて話し合ったことはありますか？先生が言葉遣いのチェックシートをつくりましたので、言葉遣いについて話し合ってみてください。



〇〇小学校 道徳だより〇月〇日号

今月の話題

子どもたちの言葉遣いについて考えてみましょう

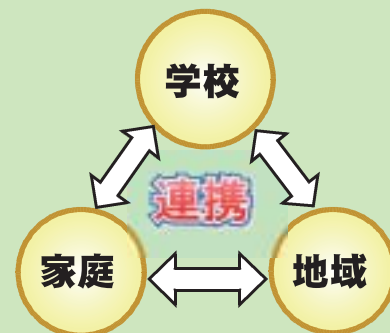
最近、子どもたちの間で、乱暴な言葉遣いが増えてきました。御家庭でも次のことを確認しながら、家庭での言語環境について、お子様と話し合ってみてください。

◎…いつもできている ○…できるときとできないときがある △…できないことが多い

チェック	項目
	言葉遣いに気を付けて子どもに接していますか。
	乱暴な言葉遣いや暴力が多いテレビ番組を見せないようにしていますか。
	子どもが乱暴な言葉遣いをしたときには、すぐに注意していますか。
	機会を捉えて子どもの心の成長にプラスになる言葉を掛けていますか。
	子どもが友達同士で話している言葉遣いを気にしていますか。

【指導上の留意点】

- ★道徳だよりでは、道徳の時間で扱った内容項目に関する話題や道徳的実践力が身に付いたと思われる児童のよい行動など、積極的に情報を発信しましょう。
- ★悪口につながるような乱暴な言葉遣いの指導については、家庭と連携を図ることが大切です。



「こころのノート」との関連

「してはならないことがあるよ」(pp. 32-33)

「友だちといっしょ」(pp. 44-45)